



混住化が進む地域における防災・減災等の多様な取組の展開

いわさき

岩崎農地水環境保全組合（大分県宇佐市）

うさし

- 本地域は、宇佐市の東部に位置しており、東西を寄藻川と向野川に囲まれ南に山を背にしたほとんど高低差のない地形で、50ha程の水田を有する人口500人程の農業集落である。
- 混住化が進む中で、集落の農業資源を次世代へ繋ぎ維持管理していくためには、非農業者の意識を改革し区民全員が参加した活動が必要と判断し、平成24年6月に「岩崎農地水環境保全組合」を自治会の下部組織として設立した。
- かつては、農業者による最小限の管理作業しかできなかったが、組織の設立により多くの参加者で様々なアイデアを出し合うことにより、防災・減災や生態系保全活動、学校教育との連携等の多様な活動が行われるようになり、地域の活性化にも貢献している。

【地区概要】

- ・取組面積 47ha（田47ha、畑0.04ha）
- ・資源量 開水路 15.5km
農道 20.0km
ため池 1ヶ所

- ・主な構成員
農業者、自治会、子供会
婦人会、消防団、宮世話
- ・交付金 約355万円（H29）

（ 農地維持支払
資源向上支払（共同）
資源向上支払（長寿命化） ）

活動開始前の状況や課題

1 防災・減災

古来より海岸線の埋め立てによって形成された低地に位置する地形条件のため、過去に幾度かの水害に見舞われ、時には死者も出ている。住民は非常に水害に敏感で、機会あるごとに対策を打ってきたが費用の面もあり行政に頼るしかなかった。

2 生態系保全

集落の外縁に位置する2つの河川からの用水の取水部分に、生態系に影響を及ぼし特定外来生物に指定されているオオフサモが繁茂。市内の環境団体等により細々とした駆除活動を行っていたが十分ではなかった。

3 学校教育等との連携

子供たちに農業体験をさせたい農家は多かったが、個人の農家で行うには負担が大きく、小学校等への声かけもしにくいと断念していた。

取組内容

1 防災・減災

水害防止活動を行う「自主防災組織」を設立するとともに活動組織の役員に防災担当を設置。さらに、「水を集落へ入れない、入ったら出す」を合言葉に5年間の戦略を作成し、これに基づき水害対応時の各者の役割分担や水門等の操作方法について検討を行った。

2 生態系保全

重機を使い2tダンプ3杯分のオオフサモを駆除。

3 学校教育等との連携

・麦や大豆の播種・収穫等体験（北馬小学校）

4年生11名 麦播き、麦踏、収穫等

3年生14名 枝豆の収穫

・田植え・収穫体験、餅つき大会（子供会）

食育の一環として田植えから食するまで一連の流れを体験



取組の効果

1 防災・減災

過去7年間の上流域の雨量及び河川水位データを用いた解析結果を踏まえ、降雨時における水害警戒体制や堰・水門等の操作方法が確立されたことから、これ以降は大雨が降っても水害は発生していない。

また、地域住民が水路の泥上げや清掃、雑木切り等の管理作業に参加することを通じて水路の持つ水害防止効果を実感できるようになり、非農業者の参画が増加した。

延べ参加者数 H24:476人→H28:974人

2 生態系保全

大掛かりなオオフサモの駆除作業を行った結果、これ以降は日常の管理の一環として手作業で容易に駆除することができるようになった。

3 学校教育等との連携

農業体験を通じた交流により、子供たちには農業や共同活動に対して興味を持ってもらえ、イベントへの子供の参加者数が増加するなど地域内のコミュニティ強化にもつながっている。



広域化による効率的な活動の実施

みねにし

ちょう

三根西地域農地・水・環境保全管理協定運営委員会（佐賀県みやき町）

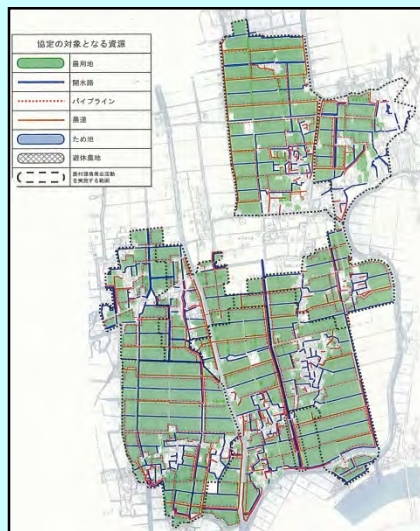
- 平成19年度から農地・水の取組を開始し、当初は8活動組織で取組を実施していたが、地区間の施設の保全・管理について責任分界が曖昧なことが問題となっていた。
- 平成23年度からの施設の長寿命化の取組を契機に、効率的な取組を行うために、組織を広域化。集落間の問題となっていた施設の保全・管理の責任分界を明確にするとともに、施設の長寿命化の取組に関する予算の効率的な配分が可能となった。
- 集落間の調整等について町のサポートを受けることにより、円滑に広域化を進めることができた。

【地区概要】

- ・取組面積 339ha（田324ha、畑15ha）
- ・資源量 開水路 90.1km、農道 24.4km
- ・主な構成員
農業者、自治会、婦人会、
その他24団体
- ・交付金 28百万円（H29）

〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

活動組織の広域化



広域化前（8組織）

- | | |
|---------------|--------|
| ①新町農村環境保全会 | 18.9ha |
| ②市武・六田農村環境保全会 | 64.8ha |
| ③大坂間農村環境保全会 | 27.1ha |
| ④直代農村環境保全会 | 22.0ha |
| ⑤続命農村環境保全会 | 23.7ha |
| ⑥東津農村環境保全会 | 51.8ha |
| ⑦松枝農村環境保全会 | 59.0ha |
| ⑧向島農村環境保全会 | 61.2ha |

- 広域化後の各集落の活動内容を決定する調整役として、町がサポートを実施。従来、別々に活動していた8組織がほ場整備を実施している範囲で広域化。
- 広域活動組織での合意形成は、集落内で決定されたものをそれぞれの地区の代表者が持ち寄り、委員会で決定。

広域化の効果



老朽化の著しいクリークの整備



総会の様子

- 以前は、集落間の水路は責任分界が曖昧で、保全管理が不十分であったが、集落間で話し合い、「組織を広域化し、保全管理が不十分である施設について組織内で相談・対応する」ことに対して合意形成を図り、問題を解消。
- 施設の長寿命化については、老朽化の著しい箇所等へ重点配分することにより、効率的な活動が可能となった。



大学・企業等多様な団体の参画による地域活性化

きりしましかれいがわ

霧島市佳例川地域農地・水・環境保全管理協定（鹿児島県霧島市）

きりしまし

- 本地域は、鹿児島県の中央部に位置し、きれいな水を利用した稲作やシラス台地の畑地では畜産（福山黒牛）が盛んに行われている。
- 佳例川集落は、65才以上が人口の5割以上を占める「限界集落」とも呼ばれる地域であるが、平成7年に地元の村おこしグループが発足し、伝統行事を復活させたほか、学生ボランティアや企業CSRとの交流・連携による様々な取組により、地域が活性化している「元気な集落」である。
- 地区内外の様々な主体と連携し、地元産の希少価値の高いさつまいも「蔓無源氏（つるなしげんじ）」を使用したオリジナル焼酎づくりや各種イベントを実施するなど、幅広いむらづくり活動を展開している。

【地区概要】

- ・取組面積 222ha（田74ha、畑148ha）
- ・資源量
開水路 22.2km、農道 43.9km 他
- ・主な構成員
農業者、自治会、消防団、子供会等
- ・交付金 約13百万円（H29）

〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地区は、高齢化が進み、祭りや運動会などの地域イベントがどんどん縮小されており、地域の活性化を図ることが課題となっていた。
- そんな中、佳例川地域の未来や夢を話す場として、地元有志によって「佳例川を語る会」が発足。
- この会を中心とした地域行事である「お田植え祭り」の復活や280年の伝統を誇る「羽山（はやま）祭り」の継承などをきっかけに、地域一体となったむらづくり活動の気運が高まる。



お田植え祭り



羽山祭り

取組内容

【多様な主体と連携した地域資源の保全】

鹿児島大学や地元企業（株）トヨタ車体研究所が、高齢化で作業が困難となった箇所の草刈りや水路の泥上げを支援

【大学と連携した地域活性化】

鹿児島大学農学部から、農村の人・資源をフル活用したビジネスモデルの提案を受け、地区内で生産されるブランド米「佳例川源流米」や地元産さつまいもを原料にした焼酎「蔓無源氏（つるなしげんじ）」による地域活性化を実現

【地元企業との連携で交流拡大】

（株）トヨタ車体研究所が、地区内でイベント（佳例川地区ウォークラリー）を開催するほか、社員食堂で「佳例川源流米」や地区の農産物を活用するなど、農村と企業の交流を拡大



農援隊により草刈り作業



佳例川ウォークラリー

取組の効果

- 大学、企業等との連携により、農地が適正に保全されるとともに、「お田植え祭り」などの伝統行事が継承され、地域の活性化が促進。
 - 新米の収穫時期に合わせてウォークラリーを開催するなど様々な都市農村交流イベントを開催し、農村の賑わいを創出。
- 〔 ・お田植え祭来場者：H9年100人→H29年150人
・ウォーキング参加者：H25年130人→H27年180人
* H28,29年度は、雨天のため参加者は60人であった。 〕
- 地域の特産品による商品開発を行うとともに、地元企業が農産品による社員食堂のイベント開催するなど、地域支援にも取り組む。



地域の特産品



社員食堂のイベント